

機動隊に守られた「再建大会」を粉碎せよ

日刊
動労千葉

81.1.30
No. 645

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)0555227二〇七

銚子の勝利を起点に、1月30日「再建地本」デッチ上げ策動を葬りさめ

動労「本部」反動分子は、最後の頼みの綱であった銚子支部が、一・二七臨時支部大会で「動労銚子支部業務再開」否決という、動労千葉破壊の大破産に直面しうろたえ、それを隠蔽するものとして、より凶悪きわまりない反動的策動にうってでてきた。「本部」反動分子は「八一・三ジェット闘争破壊」動労千葉破壊を唯一の目的とした「再建千葉地本」なるものをデッチ上げんとして、千葉中央署に弁護士を引連れて会場周辺の警備を要請し、県警機動隊に保護されて、本日、労働者福祉センターにおいて「大会」を開催しようとしている。われわれは、「本部」反動分子が国家権力のひ護のもとに行わんとする「再建千葉地本大会」デッチ上げ策動を、三里塚・労働連帯・動労大改革「本部」反動分子一掃の運動にかけて怒りの決起で粉碎しなければならぬ。

反動的本性を暴露する 権力・当局の手先「本部」反動分子

わが動労千葉の団結力によって銚子支部デッチ上げ「再建」策動を粉碎された「本部」反動分子は、危機にかられてなりふりかまわず「再建千葉地本」策動をつのらせているが、その策動こそデマとペテンとファシストの口口そのものである。

その第一は、一・二七銚子支部臨時大会で「一・二・三業務再開」「動労銚子支部再建」が大破産した事実をひた隠して、「銚子は「業務再開」を過半数をもって制し決定した。一・三〇「再建」大会を成功させ、残る千葉の七支部を再建しよう」等と大ウソをついて「本部」反動分子が牛耳る東京地本傘下の組合員を「再建大会」に急拠根こそぎ動員でかき集めて、極少数の千葉内「本部」派をテコ入れしようとしていること。

第二に、四・一七、四・一五津田沼襲撃を権力・当局のひ護のもとに行い、さらにスト破り、布施処分を当局に要請した「本部」反動分子は、またもやハレンチにも、「再建大会」会場の警備を千葉中央署に要請し、権力に守られ権力の手を借りて「再建大会」を強行しようとしている。

これこそ、権力・当局の「武装親衛隊」へのより露骨な純化を自己暴露したものであり、われわれの回答は「断固として粉碎する」のみである。

自らの失敗を銚子執行部に なすりつける「本部」反動分子

動労千葉組合員によって銚子「業務再開」が否

決されたことを知らされた「本部」派短期転勤者は、三信ビル革マル分子に、「銚子がダメになつたのだから『再建地本大会』は中止すべきだ」と申し入れたという。

これにたいする三信ビル革マル分子の答えは、「銚子支部の『業務再開』のやり方が間違っていたから、それを否決されたにすぎない。『地本再建』を行って銚子『再建』の足場をつくる」と語ったという。なんと無責任な態度であろうか。そもそも「業務再開」をむりやり銚子執行部に強要し、それを正当化するために「揭示」まで出させたのは「本部」反動分子ではないか。それを失敗するやすべてその責任を銚子執行部になすりつけるという、この口口こそ「本部」反動分子のセクト的組合ひきまわしの常套手段である。

ポロポロの「再建地本大会」を粉碎せよ

全組合員のみなさん。
このように一・三〇「再建地本大会」の内実たるや、銚子支部を足げにし、じり貧状況の極少数「本部」派組合員を、権力の手厚い保護のもとに押し立てるといふ茶番劇である。したがって、千葉県社会党はもとより県労働・公労協等々から全く相手にされず、寒々しいものに終ることは必然である。

われわれは、こうしたポロポロの展望も実体もないものであるからといって許しはしない。
「八一・三ジェット闘争破壊」動労千葉破壊攻撃である以上、全組織力をあげて粉碎するのみである。